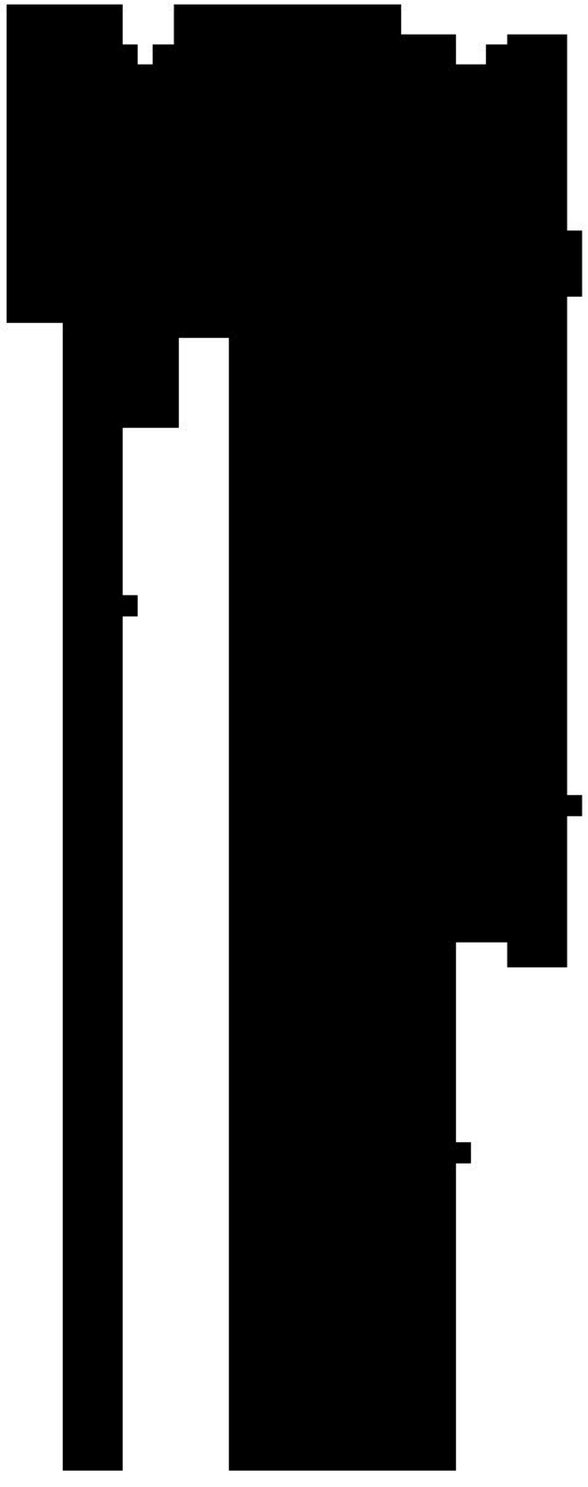
２０２６年度京都女子大学大学院文学研究科博士前期課程国文学先行秋季専門科目試験問題

問題一（古代・中古文学）次の文章は、鴨長明『無名抄』の部分です。読んで後の問いに答えなさい。



問一、――a「俊頼朝臣」について、以下の問いに答えなさい。
1、この人物が選んだ勅撰和歌集の書名を答えなさい。
2、この人物の息子は、平安時代末期に歌林苑という和歌サークルを主催した人物であり、さらに、鴨長明の和歌の師だった人物です。俊頼の息子の名を答えなさい。

問二、～～アの和歌を現代語訳しなさい。

問三、――b「これを『さよ』と心得て」について、何をどのように「心得」た（理解した）のかを説明しなさい。

問四、――c「いかにも歌は……聞きにくきものなり」について、俊頼の歌のどの部分についての非難であるかを明らかにした上で、現代語訳しなさい。

問五、～～イ「桜散る木の下風は寒からで」は、「桜散る木の下風は寒からで空に知られぬ雪ぞ降りける」（『拾遺集』春・六四・紀貫之「亭子院歌合に」）の上句です。――d「果ての文字をながながとながめたるに」とありますが、なぜ琳賢はこのような読み上げ方をしたのか、その意図を説明しなさい。

問六、――e「色真青になりて、物も言はずうつぶきたりける」について、基俊はなぜこのような状態になったのでしょうか。基俊がこの時に覚えた感情を明らかにし、その理由を説明しなさい。

問七、俊頼と基俊も出詠した、以後の和歌に大きな影響を与えた初の応制百首は何かを答えなさい。

受験番号（　　）

問一

1		2	

問二

問三

問四

問五

問六

問七

受験番号（　　）

問題二（中世・近世文学）　本学国文学科の編集による『吉澤文庫善本解題目録』が、昨年度末に本学図書館より刊行されました。本学図書館吉澤文庫に所蔵される、「吉澤本『方丈記』」と呼ばれる『方丈記』写本について、次の各問に答えなさい。

問一　『吉澤文庫善本解題目録』が吉澤本『方丈記』について叙述するなかで、その「装丁」を「袋綴」であると記しています。この「袋綴」について、説明しなさい。

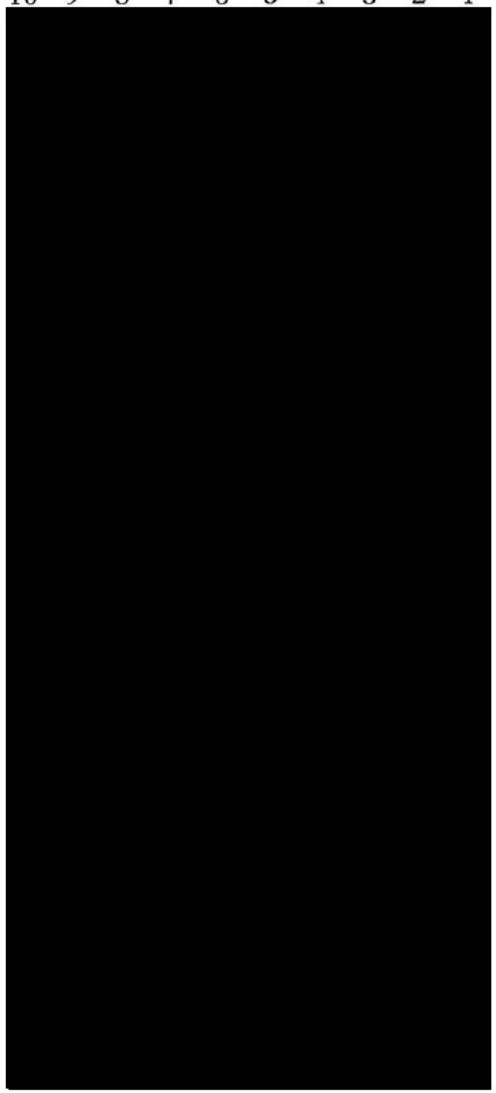
問二　次は、吉澤本『方丈記』の冒頭部です。全体を翻字しなさい。ただし、吉澤本『方丈記』の本文は、通常広く知られた『方丈記』の本文と必ずしも同じではありません。

[redacted]

受験番号（　　）

問三　次は、吉澤本『方丈記』の一節です。読んで、後の問に答えなさい。

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



（1）8行目の「に」の右に小さく「本」と記されています。これは、どういうことを示したものと考えられるか、説明しなさい。

（2）「炎魔法皇のけはしき詞」の内容を、百字前後に要約しなさい。

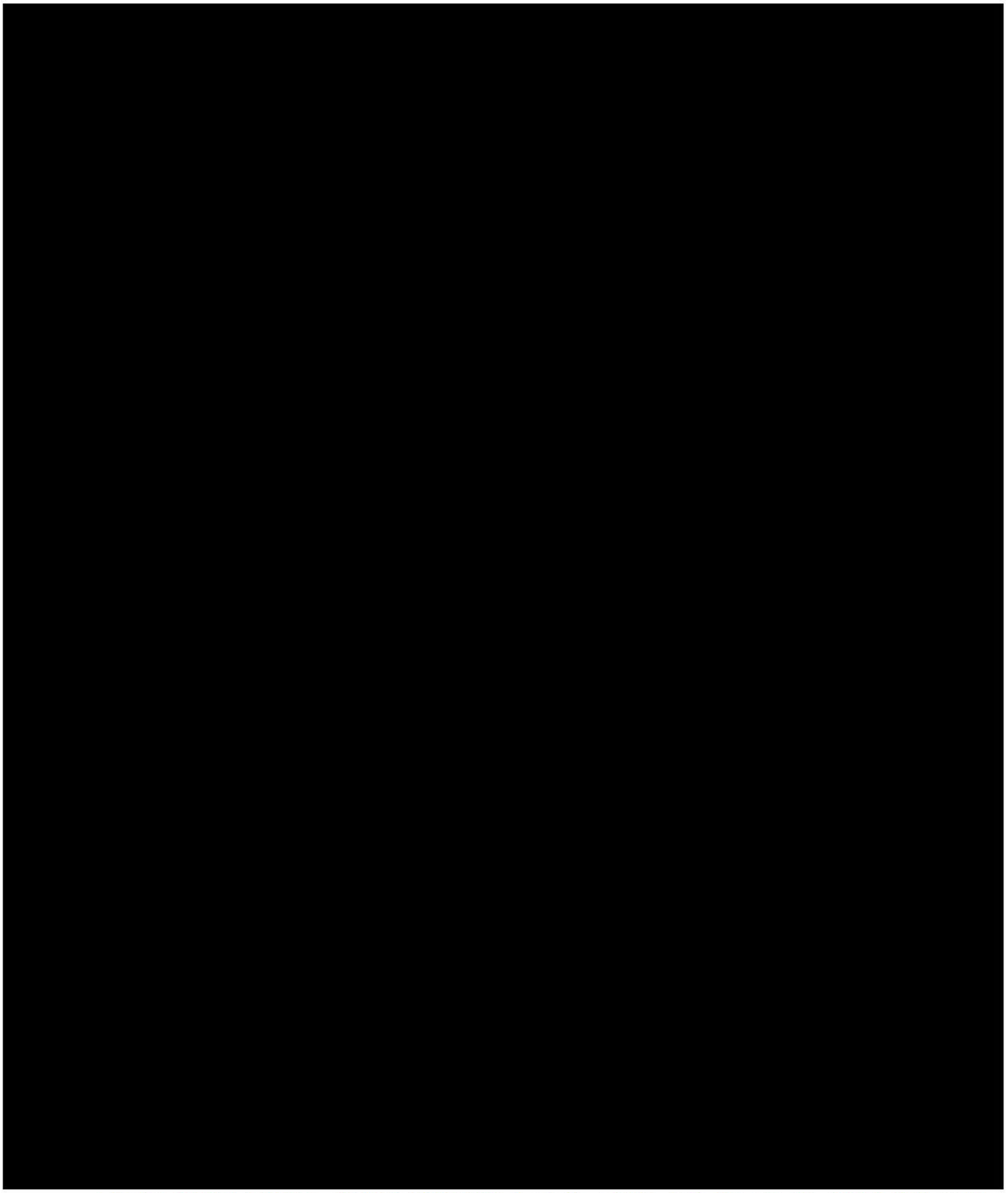
問四　江戸時代に刊行された『方丈記』注釈書の一つに、加藤磐斎の『方丈記抄』があります。その磐斎と同門で一歳年長の人物に、北村季吟がいました。そこで、その季吟について、知るところを記しなさい。

二〇二六年度京都女子大学大学院文学研究科国文学専攻（博士前期課程）　専門科目試験問題

問題三（近代・現代文学）

受験番号〔　　〕

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問及び解答欄は二枚目の用紙にあるので注意すること。



十重田裕一「東京はいつも普請中」（岩波文庫『東京百年物語　2　一九一〇〜一九四〇』〔二〇一八年一一月一六日　岩波書店〕解説）による。

二〇二六年度京都女子大学大学院文学研究科国文学専攻（博士前期課程）　専門科目試験問題

問題三（近代・現代文学）

受験番号［　　］

問一　――線部①～⑥のカタカナを漢字に直し、それぞれ次の（　　）内に記しなさい。

① コウリ（　　）　② ジンダイ（　　）　③ ケイショウ（　　）

④ ヘンボウ（　　）　⑤ スソノ（　　）　⑥ タンショ（　　）

問二　問題文中の【　　X　　】に入る最も適当な言葉を、漢字三文字で後の【　　】内に記しなさい。また、この【　　X　　】派を代表する作家を、横光利一以外に一名あげ、作家名とその代表作の作品名を、それぞれ次の（　　）内に記しなさい。

【　　】派　作家名（　　）　作品名（　　）

問三　横光利一の代表作を一つ、後の（　　）内に記しなさい。また、横光に代表される【　　X　　】派の作品の特色について、後の枠内に収まるように説明しなさい。

代表作（　　）

問四　――線部Y「「青年期に死に直面して、もう駄目だと思ったこと」が、自身の「文学の根本」を形作った」とありますが、これは横光の創作活動に於いてどういったことを意味していますか。問題文中の記述から読み取れることを踏まえて、次の枠内に収まるように説明しなさい。

問五　問題文の第二段落では、田山花袋による関東大震災の見聞録、『東京震災記』で述べられている内容について言及されています。こうした作家の体験記を研究で扱う場合、どのようなことに注意する必要があるでしょうか。今回の問題文の中で述べられていることを参考に、次の枠内に収まるように自分の意見を記しなさい。

問六　問題文の最後の段落では、夏目漱石のある作品の中の「どこまで行っても東京がなくならない」という言葉が紹介されています。大学に入るために上京する青年を主人公としたこの小説（明治四一年発表）の題名を、次の（　　）内に記しなさい。

（　　）

問七　文学を読むうえで視野に入れておく方がよいことについて、この問題文から窺えることを、「文学」「作家」「都市」「社会」の以上四つのキーワードを入れて、次の枠内に収まるように簡潔に説明しなさい。

（問題三　おわり）

二〇二六年度京都女子大学大学院文学研究科国文学専攻（博士前期課程）専門科目試験問題

受験番号（　　）

問題四（国語学）

問一　次の①②の中から一つを選択し、説明しなさい。

①「音図」について。

②「声点」について。

選択問題番号（　　）

問二　次の①②の中から一つを選択し、説明しなさい。

①現代国語の「関西型アクセント」と「関東型アクセント」について。

②現代国語の「ら抜き言葉」について。

選択問題番号（　　）

二〇二六年度京都女子大学大学院文学研究科国文学専攻（博士前期課程）　専門科目試験問題

問題五（漢文学）

受験番号〔　　〕

次に掲げるのは、藤原行成の日記『権記』長保三年（一〇〇一）三月五日条の全文です。漢字は現行の字体に変え、句読点、鉤括弧、返り点を付けました。返り点は、設問の関係で一部省いています。これを読んで、後の問いに答えなさい。

[redacted]

注
・右中弁…太政官右弁局の次官。ここは、源道方。
・八省…八省院。大内裏の朝堂院の異称。その正殿が大極殿。西隣が豊楽院。
・掃治…「掃除」に同じ。
・華清…華清宮。長安の東南の驪山にあった離宮。「驪宮」も同じ。
・姑蘇…姑蘇台。姑蘇山の頂に春秋時代の呉王夫差が築き、越の美女西施などを住まわせた。
・滋露…「繁露（はんろ）」に同じ。
・成信…源成信（なりのぶ）。行成の親友。父致平親王、母源雅信女。藤原道長猶子。長徳四年（九九八）右近衛権中将、長保二年従四位上、同三年二月三日重家と共に園城寺（三井寺）で出家。同三年二月三日重家と共に園城寺（三井寺）で出家。
・重家…藤原重家。顕光男。長徳元年（九九五）左近衛少将、長保二年従四位下。成信の親友。
・境界（きやうがい）…「境涯」「境遇」に同じ。「失境界」は出家すること。
・眼看（がんかん）…目で実際に見ること。

問一　傍線部①～③の書き下し文（訓読文）を書きなさい。

①

②

③

問二　傍線部④の書き下し文をまず書き、言葉を補いながら現代語訳をしなさい。

問三　二重傍線部「此院」と同じものを指す語句を、すべて抜き出しなさい。

受験番号〔　　〕

問四　『権記』は行成の極官（ごくかん）権である大納言に因んだ呼称です。「権」を「ごん」、「極」を「ごく」と読むのは音読みのうちの何ですか。またそれがどのようなものなのか、詳しく説明しなさい。

問五　この記事は、那波本『白氏文集』巻四・〇一四五「驪宮高（たかし）〈美（ほむる）三天子重（おもんじ）一惜（をしむ）人之財・力一也〉」の表現が踏まえられています。これについて、後の問いに答えなさい。

（1）傍線部がそれぞれ、日記本文の「垣衣」（苔）、「瓦松」（忍ぶ草）に当たります。これらはどのようなことの表象ですか。詩の中から該当する語句を抜き出しなさい。

（2）波線部の書き下し文を書きなさい。

（3）五回繰り返されている「吾君」は、具体的には中唐の憲宗を指しますが、憲宗とは逆に、在位中、毎年驪宮に行幸し、白居易も春の行幸を詩に詠んだ皇帝は、どの時代の誰ですか。

（4）この詩にも見られる古体詩と近体詩の違い三点、この詩に即して具体的に挙げなさい。

・

・

・

問六　『白氏文集（ぶんしゅう）』について、以下の問いに答えなさい。

（1）那波本について、知るところを述べなさい。

（2）『白氏文集』巻三及び巻四について、当該記事での引用方法の特徴についても触れながら、知るところや考えるところを述べなさい。

（3）白居易や、その作品と国語・国文学の関係について、（2）で述べたこと以外に、知るところや考えるところを述べなさい。

（問題五　おわり）

受験番号〔　　〕